

「羽包み(はくくみ)」

第九号 平成24年7月25日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

信念を持つ

ホーム長 前川 礼彦

今年も酷暑となりました。如何お過ごしでいらっしゃいますか。

つばさの家も 6 回目の夏を迎えました。支援をして下さる皆様のお陰様で、ホームを継続させて頂いていること、心より御礼申し上げます。

何かを継続していくことは、どんな物事でも簡単なことではありません。

「一生やり続けることは出来るか」と問われれば、先が見えない未来や自分に不安を持ち躊躇するかもしれません。しかし日々の積み重ね、継続の先で長い年月を振り返ったときに、続けてきたことの重みを心から実感できるのかもしれません。

「継続」に人生を見る。志して始めた物事も、いつしか慣れや迷いで自身の心の在り方を問い直すときが来るかもしれません。継続には不断の努力が付きまといますが、己の心の弱さとの葛藤が付きまとう事もあります。具体的なその活動は目の前の事柄を通して、自身の心の在りようを高めている作業なのかもしれません。

「私は何のためにこの活動をしているのか。」この問いの答えが日々の活動の原動力になり、継続が答えに更なる深みを与えていく・・・。

私は決して強い人間ではありません。己の心の弱さに押し潰されながらも毎日を積み重ねています。しかし強くない人間だからこそ、人の心の痛みに心を傾けられるのかもしれない。

少年たちとの暮らしに身を投じ、彼らが生きていく社会や人との触れ合いが少しでも温かいものになる様に、私は自分の存在をかけて継続し続けることを求めています。

何かにつまづいた時、自身にとって支えになるものは何か。

それは人の存在であり、学び得た言葉であり、自身の信念である。

今後ともつばさの家を応援して頂けましたら幸いです。

